

いよいよ3学期に突入しましたね！今年度も残りわずか。最後までがんばっていきましょうね♪
さて、冬休みにいくつか特別支援の研修に参加させていただきました。その中でも改めて大切な考え方だと思ったことを共有したいと思います。

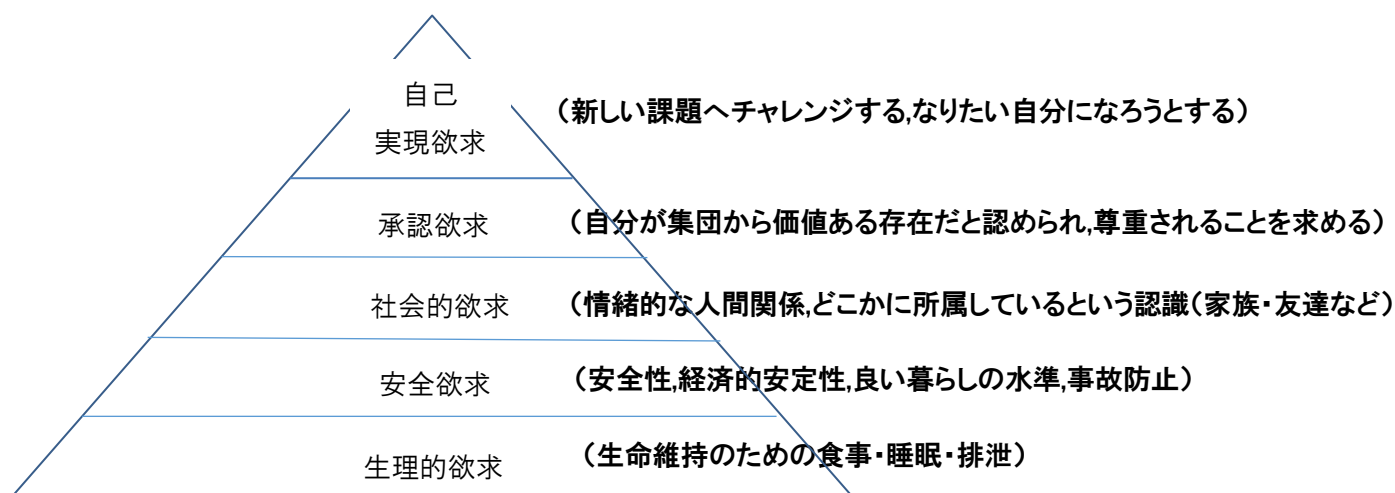
12月26日に三重県特別支援教育研究会第3回講演会に参加してきました。講師は、横浜国立大学教育学部特別支援教育講座准教授の後藤 隆章（ごとう たかあき）先生で、演題は「読み書きに困難さのある子どもへの支援—家庭との連携も含めて—」でした。

まず話されたことは、「私たちは何のために教育をしているのか」です。教育基本法の第1条に書かれていますね！**人格の完成**です。そのためには、UD化された授業（Universal Design for Learning）が大切だと教えていただきました。UDLが目指すものとは、学びのエキスパートの育成です。

- ① **学びたいという気持ちがある。**
- ② **方略的に学方法がわかっている**
- ③ **生涯にわたり自分に合った柔軟なやり方の学習方法を身につけている。** CAST,2011

上記の3点は、特別支援に限らず教育すべてに大切な要因だと感じました。①は自尊感情（自己肯定感）、②は思考力、③はメタ認知力（自分を俯瞰的に見て、自分を振り返る力）が関わってくるのではないかと私は考えます。特に自尊感情（自己肯定感）は、生きていく上でのエネルギーの根源とも言えるぐらい大切な部分です。ここが揺るぎないものになった時、人間が本来もっている「絶えず成長したい！」という気持ちがどんどん出てくるのだと思います。

後藤先生は、それを心理学者マズローの5つの欲求の図で表してくださいました。



自己実現の欲求に持つていくためには、その下にあるすべての欲求が満たされていることが条件になります。家庭が複雑な子どもたちは社会的欲求も不安定になりがちですが、多くの場合は承認欲求を満たしていただくことが大切になります。それは、成功体験の積み重ね「できた」という体感を味わうことです。

「無気力」な子どもたちを見かけることがあります。それを子どもたちのせいにはしていません

か？「無力」は学習されます。それを「学習性無力感」と言います。

【学習性無力感】

「自分の行動では、苦痛をコントロールできない」ことを学習する。(Seligman,1975)

- ① 能動的に行動しようという意欲の低下
- ② 自分の行動が有効だと気づく学習がなされず、成功に対する認知の歪み
- ③ 情緒的混乱と情動障害の発生

この「無気力」を学習させてしまう危険性をさけるためにも、以前ミニ研でも行ったアセスメントがとても重要です。できるところとできないところの境目を見つけることです。

どんな間違いをしているの？どんなふうに文字を読んでいるの？どんなふうにかいているの？ここをしっかりと教師が分析することが大切です。

そのことを知らずに、本当は読み書きが苦手なのにドリル学習（何回も漢字を練習させるなど）をさせ、誤学習（間違っことを覚えてしまい、間違っことを定着させてしまうこと）させてしまうことになり、努力が報われない形で立ち現れることとなります。そして、子どもたちは私たちが気づかない間に「無力」を学習していきます。

子どもたちに誤学習や「無力」を学ばせないためにも、その子にあった適切な支援や学習方法を提供すること、その意識を持つことが大切だと感じた研修でした。

私自身もアンテナの高さ・アセスメント力を磨いていかないといけないなと思いました！

いろいろな支援や学習方法・アプローチの仕方は職員室に置いてある書籍などにもたくさん載っていますので今回は割愛します。まずは、目の前の子どもたちが何に困っているのかを知る、その背景を探ることをしないと書籍さえも選べないな～と思うので、自分なりに分析してみてください♪

まだまだ樋口もわからないことたくさん！困っていることを一緒に考えて、一緒に勉強しましょう～♪

（文責：樋口）